

群馬県太田市空襲時に墜落したB 2 9の慰霊碑が建立される

福林 徹

1945年2月10日、約100機のB29が群馬県太田市の中島飛行機太田製作所を爆撃しましたが、その時、1機のB29が日本軍戦闘機の攻撃を受けて落下、途中で別の1機と空中衝突して、結局2機が邑楽郡（現・邑楽町）高島村秋妻に墜落し、搭乗員23人全員が死亡しました。

このたび、地元の人たちの尽力で、墜落現場に近い清岩寺にB29搭乗員23人の慰霊碑が建立され、アメリカから遺族など4人も来日し、3月20日（水・祝）10：00から記念式典が開かれました。

この記念式典開催の中心になった1人横浜の新井勲さんは、少年の頃、静岡市に家族で疎開していて空襲に会い、目の前にB29が墜落して搭乗員の無残な遺体を目撃したという経験をお持ちで、秋妻墜落B29についても関連資料の調査や遺族探しに大変尽力されました。そして、秋妻地域の人々が世話人会を起ち上げ、清岩寺の木崎伸雄住職も私財を投じて慰霊碑建立に協力されました。

その結果、記念式典は、米軍横田基地からの代表や軍楽隊員ら40人も含め、総勢300人以上もの人が集まる大集会になり、アメリカから来られたOwens 父娘、Nancy Sampさん、Elizabeth Krenickさんも大変感激されていました。

空襲で日本人が多く犠牲になっているのに、なぜB29か？ という声もあるかも知れませんが、日米の参加者からは、慰霊碑の建立には日米双方の犠牲者への弔いと、平和・友好を推進する意味があるとの言葉が口々に語られており、そのことはとても有意義なことと考えます。それにしても、戦後68年にもなるのに、「B29」というのは色々な意味で日米両国民にとって忘れがたいものなのだとすることを痛感しました。

なお、この記念式典の様子は、3月20日のNHK関東地方のニュースで放映され、また、翌日の新聞各紙でも報道されました。



B29搭乗員23人の名前を刻んだ慰霊碑



日米300人の参加者で賑わった慰霊式